



No.42

UT University Forests News

科学の森ニュース

June 10, 2008

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

ソメイヨシノ後継樹が駒場キャンパスに里帰り

田無試験地

演習林では 2003 年より本学駒場キャンパスの環境整備に協力しており、田無試験地ではその一環としてソメイヨシノの後継クローン育成に取り組んできました。これは、キャンパス再開発に伴って旧駒場寮の中庭に生育していたソメイヨシノが伐採されることになったこと、および北門のソメイヨシノ並木に枯れ枝等が著しく、通行上の安全確保のため更新を図る必要が生じたことによります。

この度、2004～2005 年にさし木で増殖した後継苗の第一陣が晴れて里帰りを果たすこととなり、去る 2008 年 3 月 6 日に 8 本が駒場寮跡地に建設されたコミュニケーション・プラザ周辺などに植栽されました。今後数年をかけて、十数本が北門並木に里帰りする予定です。



(左) 里帰りを果たしたソメイヨシノ (右) 在りし日の駒場寮前ソメイヨシノ 根元の石碑には「記念樹 櫻樹十五本 昭和十一年三月 卒業生一同」と刻まれていた。農学部との敷地交換によって旧制第一高等学校が駒場に移転したのが昭和 10 年の秋なので、駒場から最初に巣立った一高卒業生が母校の未来に想いを馳せて植樹したものと思われる。

「科学の森ニュース」のバックナンバー (PDF 形式) は東京大学科学の森教育研究センター (演習林) のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/)

公開講座「マツ枯れ跡地に 一緒にマツを植えませんか」

愛知演習林

2008年3月9日に静岡県の新居町にある愛知演習林新居試験地で、町に協力していただき、公開講座（参加者8名）を開催しました。海岸林でマツが枯れた理由と、海岸林が私たちの生活に果たしている役割について学び、マツ苗木の植え方を習ってから植栽しました。植えたのは、千葉演習林で育てられたマツ枯れに強いアカマツです。小さな子供たちの活躍もあり、予定していた120本の苗木すべてを植栽することができました。参加者の皆さん、ご協力ありがとうございました。



マツとみんな、どっちが早く大きくなるかな？

満員御礼！「伊豆に学ぶ」

樹芸研究所

2008年2月19～22、26～29日に東京大学1～2年生対象の全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」を開講しました。好評の「伊豆ゼミ」は申込数150を記録。都合82名の学生が受講しました。「竹」をテーマに、学生と共に「学び」の原点を見つめ直し、人の「和」と地球の将来のことまで考えてみました。また、今回は受入40人超の**実験**でもありました。

目的：ゼミの質と受入数とのバランスはどの辺りにあるのか？

実験方法：偶然が作用して、36人と46人との実施の運びとなりました。

結果と考察：46人は小グループに分裂気味。東

ねるのに力技必要。力技は「伊豆ゼミ」に似合わない。40人弱での実施がちょうどよさそう。

これからも全演習林の協力下、伊豆ゼミを益々充実させる所存です。



「竹」尽くしの1コマ。弓ヶ浜での手作りの「和」風あげ。

研究部木づかい運動<その1>

研究部

2006年に北海道演習林69林班で伐採されたマカバ（ウダイカンバ）を用いた、テーブルおよびイス8脚が、2008年3月17日研究部に納められました。テーブルは前本部林長の永田先生から寄贈していただきました。マカバはカバノキ科に属し、よく知られているシラカバの、いわば兄弟にあたります。木材としての市場評価は子や孫ほどに異なり、マカバはもっとも高級な木材のうちの一つです。一般的にツキ板（1mm程度に薄くスライスした板）で、家具や内装に利用しますが、このテーブルは贅沢に
およそ50mm厚の板で出来ています。加工はウレタン仕上げとし、オレンジイエローと黒で若干着色してあります。大事に使い続けて、経年美を楽しみたいと考えています。



23世紀ぐらいまで使用予定の「北演産マカバ製テーブル」

通称「鳥研」は、2004年に演習林の中に作られた技術職員による鳥類の調査・研究グループ（16名）で、32,307ヘクタールもの広大な森林を相手に、鳥類のリストを作成するための定点調査や森林別鳥類群集の調査などを行っています。

成果として、活動開始からこれまでに演習林全体で14目40科126種類の鳥類を確認しました。また、ウグイスの棲息状況を見ると、千葉、愛知、樹芸、田無では通年確認できることから「留鳥」扱いですが、冬期に積雪のある北海道、富士、秩父では繁殖シーズンになると姿を現す「夏鳥」であったり、アカハラが、北海道、富士、秩父では



オジロワシ
撮影：及川（北海道演習林）



クマタカ
撮影：村瀬（樹芸研究所）



サンコウチョウ
撮影：阿達（千葉演習林）

「夏鳥」ですが、千葉、愛知では越冬のために渡来する「冬鳥」扱いになっていたりするなど、当初予測されていたことですが、今回事実として確認できたことなどの収穫もありました。

面積が広大であることや調査回数が充分ではないことなどから、確認漏れがあるはずで、今後も「鳥研」の活動を継続し、より充実した鳥類に関する資料を整備したいと考えています。

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

2月

18日 阿達康真技術職員が人命救助で館山署から感謝状授与(千葉)

3月

6日 平成19年度利用者発表会(樹芸)
11～13日 全学体験ゼミ「雪の森林に学ぶ」(北海道)

4月

5日 公開講座「野鳥の巣箱をかけよう」観察会(千葉)
14日 新・演習林概要が完成(広報情報室)
20日 春の一般公開(千葉)
27日 休日公開(田無)

5月

3～6日 全学体験ゼミ「里山の森林に触れる」(愛知)
6日 休日公開(田無)
7日 秩父演習林のモミをけやき保育園開園式で植樹
10日 公開講座「木を育てる」(秩父)
10日 全学体験ゼミ「都市の緑の生き物に親しむ」(田無)
10～11日 全学体験ゼミ「危険生物の知識」(千葉)
11日 公開講座「鳥の巣箱作りと観察」③(愛知)
13日 公開講座「春の散策」(樹芸)
14日 自由見学日(栃本地区)(秩父)
16日 植樹祭(北海道)
24日 大滝げんきプラザ共催事業「入川軌道跡ハイキング」(秩父)
25日 子ども樹木博士・休日公開(田無)

6月

7～8日 全学体験ゼミ「危険生物の知識」(秩父)
8日 市民公開セミナー「樹海めぐり」(北海道)
14～15日 総合科目「森林-人間系の科学」(千葉・秩父・富士・樹芸)
18日 第13回利用者説明会(千葉)

7月

21日 大麓山ハイキング登山(北海道)
25日 公開講座「水辺の生き物を探そう」(愛知)

8月

1～4日 全学体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ」(樹芸)
9日 夏の森林教室(千葉)
24日 公開講座「鳥の巣箱づくりと観察」(愛知)

9月

8～11日 全学体験ゼミ「北の森林と天然林施業を学ぶ」(北海道)
8～11日 全学体験ゼミ「森林の保健休養機能～癒しの空間を考える～」(富士)
9～12日 全学体験ゼミ「フィールドで考える野生動物の保護管理」(千葉)
9～12日 全学体験ゼミ「薪炭林を満喫しよう！」(樹芸)
9～12日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ プラス」(樹芸)
24～27日 全学体験ゼミ「徹底検証『秩父』」(秩父)
27～28日 子ども自然塾(北海道)
28日 公開講座「秩父演習林のきのこ」(秩父)

チチブドウダン

ツツジ科 ドウダンツツジ属

学名 : *Enkianthus cernuus* (SIEB. et ZUCC.) MAKINO f. *rubens* (MAXIM.) OHWI

秩父演習林

秩父市大滝の大日向で採集された標本にもとづき、1912年小松春三氏により命名されました。高さ1~3mの落葉低木で山地の岩尾根に生えます。5月中旬~6月下旬に紅色の可愛い鈴のような花で私たちを惹きつけ、秋には魅力的な紅葉で楽しませてくれます。近畿地方以西に分布し、淡紅色で花柱と花冠の長さがほぼ同じものをベニドウダン、近畿地方以東に分布し、紅色で花柱が花冠よりも長く突き出ているものをチチブドウダンとして区別する説もあります。秩父演習林では、この花の色をシンボルカラーとしています。



名所名物案内

駒場からの移植樹木

田無試験地



田無試験地正門脇のクスノキ

田無試験地の正門脇にどっしりと構え、訪れる人を迎え入れてくれるクスノキ。この木は昭和9(1934)年に駒場(現東京都目黒区内)から移植されたものとされています。

昭和4(1929)年に田無苗圃として田無(現東京都西東京市内)の地に発足した田無試験地は、その淵源^{注)}を明治26(1893)年に駒場の帝国大学農科大学(のちの農学部)構内に設置された林学苗圃に求めることができます。林学苗圃はその後、林木苗圃、林木見本園、および見本林として整備され、国内外の多数の樹種を収集・育成・植栽し、当時の林学教育・研究に大きな役割を果たしました。

昭和10(1935)年に行われることとなる農学部の本郷移転に際して、移転先の本郷に十分な用地面積を確保できなかったことから、林木苗圃等は郊外に設置されることとなります。こうして田無苗圃が産声を上げます。新天地での再出発に当たり、見本林の整備に心血が注がれ、その中で駒場から樹齢20~40年の63種78本に及ぶ樹木が移植されました。

現在田無試験地では、冒頭のクスノキのほか、同時に移植されたと考えられるアベマキやスダジイ、シリブカガシなどが見られます。移植から70年余を経て、何れも田無試験地を代表する風格ある巨樹となっています。注) 淵源(えんげん): 物事の起こり基づくところ。みなもと。

科学の森ニュース (UT University Forests News)

第42号 (No.42)

発行日 平成20年6月10日

発行人 下村彰男

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp